

(8) 書写教育研究会

会 長 梅原 和砂 (中筋小学校)
副会長 池谷 康史 (東山小学校)
事務局 大原 景子 (具同小学校)

1. 研究主題 「教育活動に活かせる書写教育」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和7年 8月1日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 内容：小筆でスキルアップ ～身近な書～ 講師：小花 典明 (前 四万十市教育研究所所長)	しまんとぴあ	31名参加

3. 今年度の取り組み

今年度も「教育活動に活かせる書写教育」というテーマを設定し、講師はこれまでもお世話になっている小花典明先生にお願いした。計画を立てる際、「仕事上、名前を書く場面が多いので小筆でしっかり書きたい」という希望があり、夏季研修会では「小筆でスキルアップ～身近な書～」の内容で研修を行った。まず小花先生より、筆ペンでの書き方についての説明を受けたあと、軸、全体のバランスを大切にすることに気をつけながら、ウォーミングアップとして新聞紙に名前の練習書きをした。その後、今年度参加の会員は、小花先生が準備して下さった色紙にオリジナルな作品を考えて綴った。昨年度から参加している会員は、送る人の名前、自分の名前をしっかり書くことを意識しながら、川柳や身近な友や家族へのメッセージを考えて短冊に綴ったり、オリジナルの表彰状を作成したりした。最後は全員で作品を鑑賞し合った。



4. 今年度の成果と課題

最初に新聞紙を使って練習することで、緊張することなくリラックスした気持ちで書に向かうことができた。

今年度は会員数が31名という大人数での研修となったが、小花先生には初心者向け、経験者向けと、趣向を凝らした内容を設定していただき、「小筆でスキルアップ」というテーマの中で会員全員が有意義に研修に取り組むことができた。

先生からしおりとしてもいただいた「一日一筆一分間」というメッセージの通り、忙しい毎日の中でも筆ペンで書こうとする気持ちが芽生えた。これからも「書を楽しむ」という気持ちを忘れず、日々の生活の中で筆をとる場面を増やしていき、学校現場での教育活動に生かしていきたい。

<小花先生より>

- 1日1回は筆を取って文字を綴ると、字はおのずと上手くなっていく。
- 新聞紙は緊張せずに書け、新聞の文字で中心がとりやすく、インクも乗りやすい。日常の練習にオススメ。
- 軸を意識。
- リズム感を大切に。
- 字の強弱、書き始めと書き終わりを意識。
- 全体のバランスを書く前に頭の中でイメージ化しておく。
- 模倣を意識しすぎると自分の字の持ち味がなくなる。自然体で綴ることが上達のポイント。

<参加者の感想>

- 書に親しむことの大切さやデジタルにはないアナログの良さについて感じる事ができ、楽しく学ぶことができた。
- 普段の業務ではパソコンに向かうことが増えてきている中で、手書きの文字の良さや、集中して書に向かうことの良さを感じる事ができた。
- 以前四万十市に勤務していた時、小花先生と共に書写教育研究会に所属していた。また四万十市に勤務となり、小花先生に教えていただき充実した研修となった。
- 毎年書写教育研究会に入っている。毎年楽しく書に向かうことのできる研修となるよう準備して下さり、感謝している。

